



置賜総合支庁産業経済部農業技術普及課 産地研究室

加藤 栄美 開発研究専門員

平成2年度入庁。

生産流通課主査、農村計画課畑作園芸振興室主査
置賜総合支庁産業経済部農業技術普及課産地研究室 専門研究員
同所属 主任専門研究員置賜総合支庁産業経済部農業振興課 生産振興主査
置賜総合支庁産業経済部農業技術普及課 主任専門普及指導員
を歴任後、
平成29年度から現職。プライベートでは、最近、置賜地域男女共同参画講座の
実行委員になったという加藤 開発研究専門員。「輝く自分発見！きらっと講座」には、置賜地域の皆さんはもちろんのこと、他の地域の皆さんにも参加いただき
たいとのことでした。**山形の農業のために…**

これまでの経験を振り返ってみると、特に印象に残っている職場が2つあります。

① 初めての職場 農業試験場(現・農業総合研究センター)

生物工学部という部署に配属されました。バイオテクノロジー関係の担当で、そばの「でわかおり」、山形ではおなじみの青菜(せいさい)漬けの青菜の一種である「山形みどりな」の研究をし、2つとも品種登録されました。

残念ながら「山形みどりな」は現在は販売されていないのですが、「でわかおり」は現在も販売されています。お蕎麦屋さんの店先で「でわかおり」ののぼりを見つくと嬉しくなります。

ちょうどこの頃、つくば市で半年間研修に参加する機会があり、そこで学んだことを活かしながら、研究に取り組むことができました。非常に恵まれた環境でのスタートだったと感じています。

② 行政職の職員との仕事

農業試験場に始まり、主に農業技術の研究や普及に関する職場での勤務が続いていたのですが、係長級になった時、初めて県庁での勤務を経験しました。

園芸振興や補助事業を担当しましたが、特に農業関係の補助事業に関する業務を担当する中で、「法律や要綱のどの部分に基づいて、申請が認められるのか」というよ

うな「根拠を明らかにして説明する」姿勢が鍛えられたと感じています。

研究や普及の仕事は、データに基づきながらどのような方法なら作物の美味しさを保ちつつ収穫量を増やせるか等を研究していくものです。

一方で、補助金に関する仕事は、補助事業をきっかけに農家の方々に新しい種類の作物の生産や収量を増やすことができる新しい技術などに取り組んでもらい、所得向上等につなげてもらうというものです。研究や普及の仕事もデータという根拠に基づくものではありませんが、どうしても天気等に左右される部分も大きいので、感覚的な面で判断する部分が生じてきます。それに対して、補助事業に関する仕事は、法律や要綱等の根拠が明確になっているので、研究や普及の仕事とは違う視点が必要になってきます。このような経験が、その後の研究や普及の仕事に活かされていると感じています。



感謝の気持ちを忘れずに

現在、研究調整業務を担当するほか、次の3つの作物の研究に取り組んでいます。

- ①薬用作物の当帰(トウキ):漢方に入っているものです。全国的なコンソーシアムが組織されるなど、研究に関する動きがあります。
- ②しょうが:暖かい地域で栽培されるものですが、山形でも栽培できないか研究しています。
- ③えだまめ:だだちゃ豆や置賜の上杉まめなど、山形県内には美味しいえだまめがあり、県としても日本一のえだまめ産地を目指しています。えだまめを夏から秋まで継続して出荷できる方法や品種について研究しています。

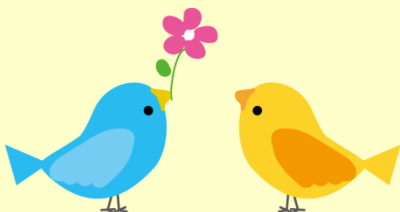
私たち一般農業の研究職員は、それぞれ研究課題を決めて取り組んでいるのですが、研究は自分1人でできるものではありません。研究技能員の方にトラクターで畑を耕してもらったり、臨時職員の方に作物のデータのとりまとめ作業をしてもらったり、たくさんの方の力を借りて研究を進めています。周りの方に常に感謝の気持ちを忘れずに仕事に取り組むようにしています。

その一方で、研究課題に関する全責任は研究員にあるという気持ちをしっかり持って、的確な指示を出すようにすることを心掛けています。

他には、日頃から職場でのコミュニケーションも大事にしています。当室では、毎朝その日の業務の打合せを行います。仕事の分担をするだけでなく、全員が顔を合わせて行う大切なコミュニケーションの場になっています。



《朝の打合せ風景》

**プライベートの過ごし方**

料理が好きで、カレーも香辛料を調合して作ってみたり、ピザも生地から作ったりしています。特にカレーは家族からの評判もよかったです。



《調合したスパイスを使ってバターチキンカレーを作っているところ》

それから、実は最近、米沢市が行っている置賜地域男女共同参画講座の実行委員になりました。以前、仙台市で参加した「宮城・山形女性交流会」というイベントで知り合った方に声をかけていただいたのがきっかけです。実行委員会では、「輝く自分発見!きらっと講座」として、平成29年度は、全4回の講座を開催します。1回ごとに参加者の募集をしているので、ぜひ興味のある方には参加していただけたら嬉しいです。置賜以外の方でも参加可能です。

置賜地域でこういった講座が開催される機会はこれまであまり多くなかったようですが、今回の講座をきっかけにこういう動きが広がっていったらと思います。

また、普段は仕事と家庭生活に追われているような状況ですが、子どもの手がかからなくなってきたこともあり、意識的に、「自分を見つめる時間」を持つようにできたらと思っています。先日、県職員OBの方と会う機会がありました。仕事をしている時は特別な趣味はなかったそうなのですが、今は、写真を撮ったり、エッセイの教室や卓球のクラブに通ったりしているそうで、退職時と変わらず、もしかするとそれ以上に生き生きとしていらっしゃるように感じました。そういう姿に感化されたような部分もありますね。

子育てと仕事で得られたもの

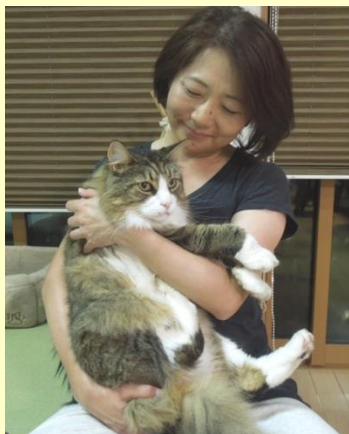
仕事でうまくいかないことがあったり疲れていたりしても、子どもの顔を見ると疲れや不安も無くなるような気がします。子育てと仕事の切り替えの瞬間があるからこそ、メリハリが生まれ、仕事においてもプラスに作用していた部分もあるかもしれません。仕事とプライベートの気持ちの切り替えの方法は人それぞれだと思いますが、子育て中の方だと、子どもと接する機会が気持ちの切り替えになっている方も多いのではないかと思います。



《アスパラガスの収穫作業》

子育ての時期はとにかく時間に追われるような毎日のため、自然と段取り重視になり、それが仕事の面でも役に立つということがあると思います。

また、「根拠を明らかにして説明する」姿勢が鍛えられたように思うという話をしましたが、子ども達が小さい頃は特に「これは、やってはダメ！」と感情的に言うのではなく、「こういう理由で、やってはだめなんだよ」ときちんと理由も含めて伝えようという気持ちで接していました。仕事で身に付いたことが子育てでも活かせるのではないかと思います。



《愛猫の「とら」と一緒に》

女性職員へのメッセージ

私自身も周りの人のサポートを受けながら子育てをしてきました。今の職場でも育児時間を取得している人がいます。自分がサポートしてもらった分、サポートしたいと思っています。

結婚する選択、しない選択どちらもあると思いますが、結婚する選択をした方で、もし子どもを授かったのであれば、頼るときは周りに頼って、安心して子育てをしてほしいと思います。

私も育休を取得しました。当時の上司が、「安心して育休をとってね」と言ってくれて、すごく心強かったです。

それから、月並みな言葉になってしまいますが、「ありがとう」の気持ちを相手に素直に伝えられる人であってほしいと思います。仕事を続けていくうえでも、家庭生活の中でもとても大事なことだと思います。



《しょうがの生育調査》

一般農業ならではの仕事に関する話も聞かせていただきましたが、仕事に対する姿勢は、職種を問わず、参考となるのではないのでしょうか。

